

医学教育分野別評価 浜松医科大学医学部医学科 年次報告書 2025年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36を踏まえ、令和6年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和6年4月1日～令和7年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準

改善のための助言

- ・使命の中で、卒前教育が卒後の教育への準備であることを学生に理解可能な形で記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ディプロマポリシーと初期研修の到達目標との関連性を整理し、カリキュラム委員会で承認し、関係図を作成した。

改善状況を示す根拠資料

資料01 「ディプロマポリシー」と「臨床研修の到達目標」の関係図

資料02 令和6年度第2回 医学科カリキュラム委員会議事要旨

1.3 学修成果

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・卒業時と卒後研修終了時の学修成果の関連性を学生が理解できる形で記載することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ディプロマポリシーと初期研修の到達目標との関連性を整理し、カリキュラム委員会で承認し、関係図を作成した。

改善状況を示す根拠資料

資料01 「ディプロマポリシー」と「臨床研修の到達目標」の関係図

資料02 令和6年度第2回 医学科カリキュラム委員会議事要旨

2. 教育プログラム

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

改善のための助言

- ・行動科学について6年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4年次の臨床医学総論では、行動科学と医療倫理の課題検討ワークショップを行い、学生にはグループでディスカッション後にロールプレイを実演・録画した。録画された動画の発表会を行い、教員からフィードバックを文面で提示して、優秀な動画に対しては教員・学生双方からコメントを与えた。5年次には学生による精神科予診において、患者とのコミュニケーションを行動科学と医療倫理の両面からサポートし、評価・検討するためのワークショップを、グループごとに予診の前後に実行した。また、らせん型カリキュラムにおける早期臨床教育の一環として、医学科1年後期「心理行動科学Ⅱ」では、臨床講座の教員による精神医学、緩和医療の教育を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料03 「臨床医学総論」シラバス（令和6年度）
- 資料04 （部外秘）臨床医学総論行動科学演習関連資料
- 資料05 「心理行動科学Ⅱ」シラバス（令和6年度）
- 資料06 （部外秘）精神神経医学Ⅰ5年生予診講義関連資料

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・臨床医学を理解し実践するための基礎医学、行動科学および社会医学の視点でカリキュラムの垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

感染症、免疫学の領域において、基礎医学と臨床医学をスムーズにつなげるための「臨床感染症学・免疫学」を開講した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料07 「臨床感染症学・免疫学」シラバス（令和6年度）

2.8 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・卒業生が働く職場からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和2年度、令和4年度に引き続き、卒業生が働く職場からの情報を得るために、アンケートをIR室で実施した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料08 （部外秘）令和6年度 医学科学修成果に関する卒業生（令和4・5年度卒）の研修先プログラム責任者へのアンケート調査結果報告書

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準

改善のための助言

- ・知識だけでなく、技能および態度を確実に評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和6年1月にe-ポートフォリオが導入され、臨床実習における技能の習得・評価状況を診療科ごとに調査・集計し、解析を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料09 e-ポートフォリオを活用した診療参加型臨床実習における学生の医行為実施状況の検討（令和6年度のデータ解析 中間報告）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

改善のための助言

- ・形成的評価をさらに活用し、学生の学修を促進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

e-ポートフォリオを活用したフィードバックの程度を集計・解析した。

改善状況を示す根拠資料

資料10 e-ポートフォリオを活用した診療参加型臨床実習における学生への形成的評価の実施状況の検討（令和6年度の一部診療科の解析）

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを、学生に行うこと。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

e-ポートフォリオを活用したフィードバックの程度を集計・解析した。

改善状況を示す根拠資料

資料10 e-ポートフォリオを活用した診療参加型臨床実習における学生への形成的評価の実施状況の検討（令和6年度の一部診療科の解析）

5. 教員

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

改善のための助言

- ・教員や学外の教育指導者を対象とするFDをさらに充実させ、参加度を高めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

対面に加えオンラインやe-learning化のうえで、学外の教育指導者を対象とするFDを引き続き実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料11 令和6年度FD実績

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準

改善のための助言

- ・学生に携行可能な医療安全・感染対策マニュアルを配布し、遵守させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和6年度も改正した医療安全ポケットマニュアルを配付し、引き続き臨床実習の際に携帯させた。

改善状況を示す根拠資料

資料12 医療安全ポケットマニュアル（令和6年度版）

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

改善のための助言

- ・学内外の臨床実習指導者に対して、指導法や評価に関するFDを充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

対面に加えオンラインやe-learning 化の上で、学内外の教育指導者を対象とするFDを引き続き実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料11 令和6年度FD実績

6.5 教育専門家

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・医学教育に関わる研究をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育推進センターの教員が医学教育学会等において、医学教育に関わる研究の成果について発表等を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料13 令和6年度医学教育推進センターの業績

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

改善のための助言

- ・IR室が収集したデータをもとに、6年間の学修成果をモニタすべきである。

- ・プログラムとその主な構成要素を適切に評価すべきである。
- ・プログラムが学生の進歩を促すように整備されているかを適切に評価する仕組みを確立し実施すべきである。
- ・プログラムの各構成要素について、どのような課題があるかを特定する仕組みを確立し、カリキュラム改善を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室が収集したデータを元に、医学科カリキュラム評価委員会において6年生に対するコンピテンシーの達成度・満足度、標準修業年限内卒業率および医師国家試験合格率等によって、学修成果を引き続き確認した。

医学科カリキュラム評価委員会で、各学年の退学、休学、留年等のモニタを行ったり、6年生への卒業時アンケートの自由記述について、プログラムの主な構成要素で分類し、引き続きプログラムを定期的に評価した。

IR室にて作成した資料を元に教務委員会および教授会で1年次GPA、CBT、内科学卒業試験、国家試験自己採点結果について引き続き評価を行った。

改善状況を示す根拠資料

- 資料14 (部外秘) コンピテンシーに関する自己評価アンケート調査結果報告書(令和6年度)
- 資料15 国立大学医学科等 標準修業年限内卒業率
- 資料16 国立大学医学科等 医師国家試験合格率(新卒及び総数)
- 資料17 医学科 留年者・休学者・退学者数
- 資料18 (部外秘) コンピテンシー(学修到達目標)に関する自己評価アンケートの自由記述欄から
- 資料19 (部外秘) 1年次GPAとCBT成績と国家試験成績等の関係について(令和6年度卒業生)

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・教育活動とそれが置かれた状況を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。
- ・プログラムの特定の構成要素について、適切に評価する仕組みを確立し、定期的を実施することが望まれる。
- ・長期間で獲得される学修成果を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒後4年目の卒業生にアンケートを実施し、医学科カリキュラム評価委員会で引き続き評価を行った。また、アンケートの回収率の向上についても引き続き検討した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料20 (部外秘) 令和6年度 医学科の教育に関するアンケート調査結果報告書(卒業生対象)

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

改善のための助言

- ・教員と学生からフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年生への卒業時アンケートについては、定期的に実施し、医学科カリキュラム評価委員会で引き続き評価した。今年度新たに教員からのフィードバックを求めるため教員への教育課程のアンケートを実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料14 (部外秘) コンピテンシーに関する自己評価アンケート調査結果報告書(令和6年度)

資料21 (部外秘) 医学科の教育課程に関するアンケート調査結果報告書

7.3 学生と卒業生の実績

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・学生の学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を入試委員会、カリキュラム委員会、および学生支援に関する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室が学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果をカリキュラム評価委員会、教務委員会へ引き続きフィードバックを行った。

改善状況を示す根拠資料

資料22 (部外秘) 令和6年度第2回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨

資料23 令和6年度第1回および第10回教務委員会議事要旨

7.4 教育の関係者の関与

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・卒業生の実績とカリキュラムについて広い範囲の教育の関係者からフィードバックを得ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「卒業生の研修先プログラム責任者へのアンケート」を行い、卒業生の実績とプログラム責任者からの助言を分析し、カリキュラム改善のための検討を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料08 (部外秘) 令和6年度 医学科学修成果に関する卒業生(令和4・5年度卒)の研修先プログラム責任者へのアンケート調査結果報告書

8. 統轄および管理運営

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

改善のための助言

- ・静岡県地域医療対策協議会をはじめ近隣の県、市町村などの行政との交流を深めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療実習において、静岡県健康福祉部、菊川市、御前崎市、森町と引き続き連携して実施した。

静岡県医学修学研修資金利用者の学生と静岡県との意見交換会の開催等、静岡県と引き続き連携して実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料24 静岡家庭医養成プログラムパンフレット

資料25 総合診療専門研修プログラム

資料26 静岡県医学修学研修資金利用者意見交換会開催通知

資料27 静岡県キャリア形成卒前支援プラン／ふじのくに地域医療支援センター

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・ 保険医療関連部門との交流に学生も関わることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療実習において、静岡県健康福祉部と引き続き連携して行った。

静岡県医師臨床研修・専門研修病院合同説明会に学生も参加して、先輩医師等との意見交換等を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料25 静岡家庭医養成プログラムパンフレット

資料28 静岡県医師臨床研修・専門研修病院合同説明会（開催通知等）